

地方自治ここにあり 首長インタビュー ①

観光産業の再創造でめざす地域振興 対話の行政で信頼を回復へ

那智勝浦町 堀 順一郎 町長



堀 順一郎町長

シリーズで紹介している「首長インタビュー」、今回は那智勝浦町の堀順一郎町長です。

堀町長は元和歌山県職員で平成三〇年四月、病気のため退職した前町長の後継に推されて急遽立候補し、五月に無投票で選ばれました。

「那智勝浦町は長く停滞が続いた」という声が聞かれる中で、町政への信頼を取り戻してどのようなまちづくりを進めていくのか、堀町長に当研究所鈴木裕範常任理事がお聞きしました（取材は平成三〇年十一月九日）。

二つの「持つ」に こめた思い

鈴木：町長は就任にあたっての挨拶で「自信と誇りを持って未来に希望が持てるまちづくり」を訴えていました。印象に残った言葉があります、「持つ」です。一つは、「未来に希望が持てる」という「持つ」、も

う一つは「誇りを持つ」という「持つ」です。ここに

堀町長がまちづくりを進めるうえで基本的な方向性を感じるのですが、どうでしょう。

町長：私、全く町長に就任すると思っておりませんでした。森町長さんが退任されたというのを聞き、多くの方々から立候補の要請を受け、何度もお断りしたのですが、最終的には、私も那智勝浦町民ですし、那智勝浦町のことをすごく思っていましたので決断しました。確かに私自身、東牟婁振興局地域振興部長として那智勝浦町を見たときに、ちよっと疲弊してきているな、元気ないな、すばらしいものを持っているのにな

ぜんなんだろうと思っていました。地域振興部長として勝浦をサポートすることを森さんにもお伝えしてたんですが、その森さんが病に倒れられ、地元の人間として放つといていいのか、一生悔いが残ると思います、私で良ければとお受けして、四月一五日に急遽退職をして立候補しました。

常々、那智勝浦町は、那智の滝、熊野古道、マグロ、温泉などポテンシャルを持っているにもかかわらず、町民の皆さん方が将来の希望を持っていないことをひしひしと感じたので、地元の方々に地元の魅力、価値について再認識していただき将来に向かって、これがあれば大丈夫だから一緒に希望を持ちませんかということが、「持つ」というキーワードになったと思います。

鈴木：町民が、なぜそこまで自分たちのふるさとに自信が持てなくなっているのか、誇りが持てなくなっているのか、行政にも問題があったのではないですか。



少し元気がない駅前商店街

町長：関係市町村が県庁で行われる行政、財政、税政のヒアリングを受けるシーンがあります。那智勝浦町は、しなくてはいけないことが決められていないと感じていました。それは行政の中で元気のなさが一つあります。

もう一方で、宿泊客が、一〇年前と比べて半減しています。それは、観光客が半分になってしまおうということになるので、商店街も元気がなくなり、全員が元

気をなくしていた。地元の人が観光客に、「ここは何もないで、大したことないで」と言ったら、お客さんはそれなりの感覚しか持たないと思うんです。

職員に対しても自信持っていないよ、誇りを持っていこうと申し上げていますし、私自身が先頭に立って勝浦はこんなにすばらしいとこや、皆さん一緒にPRしましょうよと呼びかけています。

鈴木：つまり、那智勝浦町はこの何年間か、いつからか停滞していたと。

**対話重視
課題の新グリーンセンター
建設にめど**

町長：町民の生活に直結するものが、まず最初に解決しなくちゃいけないのにそれができていなかったという停滞はあったと思います。その象徴が新グリーンセンターの建設です。その停滞は、町長と町会議員との対立が原因だと思えます。

鈴木：停滞の要因に、対話

が欠けていたということがあったということですね。

町長：はい。

鈴木：堀町政は、対話を大事にする行政を行っていく。

町長：全くそのとおりです。新グリーンセンターは、私が就任したときには、今、決定したところとは別のところへ建設できないかという話になっていました。その話も、きちっと地元の関係とか、周辺のインフラ関係を精査せずに、その地域に持っていったものですから、かなり地元の方々から不安がありました。

私が就任したときに、取りあえず今は白紙というか、経済面であるとか環境面、建設期間の大きな三つのポイントで再度検証しますという話をしました。

今、大浦というところに建設を予定しています。ここは海から見ると全然見えません。環境的にはトンネルとトンネルの谷間で山深いところなんです。場所的には津波浸水も全く心配ないです。例えば国道が流されたとしても、高速道路を使

って、トンネルを抜けるとグリーンピアへ行く道から回り込んで行けます。防災面でもいいです。国道42号線に面しているので造成も必要ないですし、取付け道路をつくる必要もない。そういう意味で、環境面とか経済面、防災面でも、ここしかないと考えてここに決定しました。

鈴木：この事業は、堀町長一期目の大事な事業になってきますね。

町長：町民にとって一番大事なものだと思っています。焼却炉が駄目になれば、たちまちごみが溢れるわけですから、何を置いてもまずしないといけないと思っています。

**観光産業を立て直す
ポテンシャルを活かす**

鈴木：分かりました。ところで、那智勝浦町の地方創



勝浦漁港のにぎわい市場

生総合戦略ですが、今後とも人口減少が避けられない中で、基幹産業である漁業、林業が、消滅の可能性があると厳しい見通しが示されています。では、一体地域経済をどう立て直すのか。町長は「一〇年先、三〇年先を見据えたまちづくり」の必要性にふれていますね。まちづくりの基本的な方向を聞かせてください。

町長：地方創生の総合戦略について、那智勝浦町は毎年三〇〇人弱の人口減少があります。特に去年と一昨年で比べると、四四〇人減



那智大社

少して、県下の減少率のナンバーワンとなつてしまいました。三〇〇人という、那智勝浦町一万五千人の人口の二パーセントです。いかに減少率を抑えていくかということになるので、やっぱりここは観光産業をきちっと立て直して、観光

産業で域外からどんどんお越しただいて、農業、林業、水産業など一次産業の生産物をそこで消費していただく。観光産業が主体となつて一次産業まで波及していく必要があると思つています。それはあくまで、旅館業とか観光関係者と一緒になつていく必要があると思つています。

一〇年先、三〇年先のまちづくりというのは、那智勝浦町は、巨大トラフの場合浸水域が二二〇ヘクタールぐらいあつて、約八千人ぐらいが被害を受けると言われている。その方々がたちまち困らないように、浸水域でない高台に平地をつくらうと思つています。それは、ふだんはスポーツグラウンドとして使いつつながら、子どもたちが少年サッカーや野球の練習をしたり、お年寄りがゲートボールをするような会場にしておいて、水と電気があれば、災害復興住宅もそこに建てられる。そういう意味で、ただ単にグラウンドをつくるのではなく、来たる



青岸渡寺

べき災害に備えた施設づくりをしていく。高速道路が延びる中で、本当にそこに必要なかどうか、人口減少に合わせたキャパであるとか、そういうことも考えた上で一〇年、三〇年先を見たなかで施設整備をしていく必要があります。

鈴木：前段で述べられた観光戦略についてですが、もう少し聞かせてください。

町長：那智勝浦町は、すばらしいポテンシャルがあります。一つは世界遺産、文化財ですね。あと温泉や祭り、それに自然、施設。世界遺産は皆さんご存じです。温泉とか祭りというのは、湯川温泉もありますし勝浦

温泉も有名です。那智の火祭りも代表的です。自然は、宇久井半島、勝浦の弁天島、湯川のゆかし瀉、太田川や日本一短いぶつぶつ川とか、本当にたくさんあります。施設をみても、道の駅のなち、JRの那智の駅、海の駅なち、那智駅周辺で三つ揃っているんです。多分、全国でここしかないと思います。そこに丹敷の湯という温泉があり、前にビーチがあります。こんなに集客できるものがあるのに活かしきれてない。町立温泉病院には、日本に一台しかないリハビリ機械もあります。食についてはもちろんマグロ、イセエビ、クロムツとかヨロリというなかなか市場には出ないんですけど、地元には大変おいしい魚もあります。農産物では、くろしおイチゴとかポンカンもあります。人材も、熊野古道の語り部とか、ジオの語り部、それにマグロの解体ショーができる漁協の職員、こんな方々のポテンシャルがいっぱいある。それらを商品化し、施設を

活用したイベントや仕組みづくりをして、観光振興につなげていく。

私は、観光は光ではなくて幸、本当に幸々を見にくい旅行、そこへ行って、幸せな人を見たら、その方々も幸せになるものだと思います。だから勝浦町民は本当に幸せにならないといけないのです。地域の資源を十分活かして、自信を持ってお客さんを迎え入れるような観光産業にしたいというのを訴えています。一朝一夕にはいかない、地道に本当の魅力を訴えていくということでしょうか、お客さんに来ていただく手立てはないと思つています。



太田川

地方自治ここにあり 首長インタビュー ②

観光産業の再創造でめざす地域振興 対話の行政で信頼を回復へ

那智勝浦町 堀 順一郎 町長



堀 順一郎町長

前号(三〇五号)で、平成三〇年十一月九日の堀 順一郎那智勝浦町長インタビューを「地方自治ここにあり 首長インタビュー①」として紹介しましたが、今回はその後半部分を紹介いたします。聞き手は、当研究所の鈴木裕範常務理事です。

マグロ文化を再評価 延縄漁は環境型漁業

鈴木：幾つもの資源の再評価に基づく価値のブラッシュアップが行われていく必要があると思います。それと、私が住民の方から聞く不満のひとつに、町の文化行政への取り組みの不十分さ、関心の低さがあります。どうお考えですか。

町長：文化は、いろいろ切り口があると思います。歴史的な文化、文化財の文化

とか、歌や楽器というような文化、あるいはマグロの文化というものもあると思います。いろんな民間団体がいます。いろんな文化活動をされる中では、支援はさせていたかどうかと思っています。私は、マグロ文化はきちっと後世に伝えていかなくてはいけないし、この歴史もクローズアップしてPRしていきたい。今クロマグロの資源枯渇のために総量規制が世界的な動きです。那智勝浦町で揚がるマグロは延縄漁です。延縄漁というのは、例えば一〇〇本の針に餌を付けて釣ります。仮に一万匹のマグロが来ても一〇〇匹しか捕れません。しかし、かしまき網というのは、一万匹あつたら、大きいのも小さいのも全部捕りきるんです。そういう意味では、マグロ延縄漁は自然環境に優しい漁業と言えます。



勝浦漁港のマグロ水揚げ風景

ビン玉をこの町長室に置いていますが、昔は延縄漁でブイとして浮かべていたものです。このビン玉をモニメントとして置いて、ライトアップしたり、マグロが食べられるところに置いて、伝えていきたいと思っています。この網(ビン玉を包む)をつくっている脇仲倶楽部の皆さん方もご協力いただいで、編み方教室も行っています。そういう文化を伝えていくことも、誘客の一つのツールとして使っていきたいと思っています。

鈴木：町では、マグロを一つの軸にした観光というのは、ここ一〇年程前から取り組まれてきたように記憶しています。私も少し関わらせてもらったことがあ



歴史を伝えるピン玉の町並み 仲ノ町商店街

ります。マグロ文化の再創造は、極めて魅力的です。伝統文化が大切にされる町は、やっぱりいい町の条件のひとつです。

ところで、人口減少対策ですが、若者が住む、女性が多めの町、そのための政策についてお伺いしたい。

町長：やっぱり一八歳から二五歳までの世代は極端に減ります。大学に行くにしても通えない実態があり、大学を卒業して帰って来たけれども働くところがないという話があります。一方で、ホテル関係の方に聞くと、人手不足で、満室に

できない人手不足だと聞きます。そのミスマッチを少しでも解消する。あるいは観光に力を入れてお客さんが来れば、いろんな起業につながると思います。駅前でも何店か、イタリアンとかカフェとかできています。そういうふうな起業を支援していきたい。起業は若い人でないとなかなかできないと思います。

今あるお店も娘や息子があとを継がずにやめてしまふというケースもままあります。そこへ帰ってきていただくので、継続できるように、そのためにも観光産業に力を入れて、交流人口もどんどん増やしていくことが必要じゃないかなと思います。

鈴木：それと、女性がこの町で暮らしていこうという場合には、町の魅力度アップというのがとくに大事だと思います。子どもを生んで育てる、生活していく体制があるのかどうか。

町長：私は、勝浦というのは温暖な気候でもありますし、人情的にも厚いところ

なので、決して住みにくい町ではないと思います。子育て環境も保育所に入れないということもないので、環境としては悪くはないと思います。

鈴木：高齢者対策は、どうですか。

町長：今現在で高齢化率が四一・一パーセントだったと思います。高齢化というのは、どんどん進んでいくと思います。ただ、元気なお年寄りがたくさんいらっしゃるところがあるので、高齢者の方が、地域活動が生きがいになつてもらえるような組織づくりができないか考えています。

鈴木：高齢者を活かす仕組みというのは具体的には。

町長：実はシルバー人材センターに登録されてる方が、極めて少ないんですよ。誇りを持てるような、やって良かったな、喜ばれてうれしいなというぐらいの仕事をシルバー人材センターの方々と相談しながらやっていく必要があると思つています。

鈴木：なぜ少ないのか気になるそうですね。

町長：そうなんです。僕も分らないんですよ。この仕事手伝つてくれと言つて、それがシルバー人材センターだったというような方がいいのかなあ。平成二三年の大水害のときに、町職員の手が回らない中で食料を運んだり、そういつたことをOBの人が、率先してやってくれたんです。すごく大きな力になったと聞いてるので、そこを制度化して、避難所回る方、土砂を運ぶグループとか、そんな組織づくりできないかと思つています。

鈴木：地域の住民の皆さんを信頼し、働きかけていくような取り組みが必要だということになるんでしょうか。

町長：はい。

地域振興の主力は 観光産業

基礎には減災・防災

鈴木：来年度の事業で、堀町長として重点的に取り組

みたいものは、今の段階でいかがでしょうか。

町長：観光事業を一から見直したいと思つています。観光協会にも多額の補助金も出ていますけれども、そのことも含めて、今まで取り組んできた全ての事業を検証していきたいと思つています。検証する中で、その重点的な予算配分をして、必要なものを必要箇所へ予算を配分する。それは全部やっていきたいと思つています。

鈴木：観光産業をもう一度見直して、地域の振興に役立てるような取り組みのこれからを期待させてもらいます。

町長：主力産業の観光について、いろんなイベントや施設整備もするかもしれません。

鈴木：那智の三つの道の駅ですが、道の駅は今日、地域の様々な特産や資源が並び各地で特徴を競つていますが、那智では地域の農産物や漁業に関連する加工品などは十分登場しているのでしょうか。



那智の滝と原生林 手前は青岸渡寺三重塔

町長：品数でいくと、多くはないと思います。駅前には道の駅なち農産物直売所と道の駅那智駅交流センターがあります。そこは丹敷の湯という温泉があるんですけど、まだ品物は少ないと思います。

鈴木：そのほかに、これは、話しておきたいということがおありでしたら、いかがでしょうか。

町長：観光産業の振興は、やっぱり防災・減災、絶対安心であるということがべ

ー入で、それも視野に入れながらやっていきたいと思っ
ています。すべてのものは
防災・減災とつながって
いると考えております。

また、那智の滝一〇〇年
の森づくり事業で、どうい
う森づくりがいいのかとい
う諮問機関を設けるのに、
委員さんの選定について九
月議会で議決をもらったと
ころです。

那智の滝というのは唯一
無二、ほかにはないんです。
ふるさと納税の納税先を考
えていただくときには、こ
こをPRして、この山の保
全を進めて、山全体の景観
も見ていくきっかけづくりに
したいということで、年
度途中からやり始めたもの
です。来年から具体的に、
進めていくことになってき
ますので、年度途中で始め
た事業です。

鈴木：その話というのは、
かつて那智の滝の水源であ
る森を守る取り組みがあっ
たと記憶していますが。

町長：あれは、竹下内閣の
ときにふるさと創生基金と
いう名目で各自治体に配つ

た一億円があつたのですが、
よう使わなかつたんです。
これを何とかしないととい
うことで、平成一三年に当
時の町長が、那智の滝保全
基金という基金をつくりな
おしたんです。一億円のう
ち看板とこの募金箱で使っ
ただけなんですよ。ふるさ
と納税が始まって、納税の
寄附先ということで、那智
の滝の森ということだつ
たので、原資は一億円です
けど、そのあと二億円の寄
附があつて、今三億円あり
ます。それで植樹とか、納
税していただいたら、宿泊
券を返礼品として三割以内
で返して、実際に来てもら
って、植樹してもらおうと
か、結婚して来てもらおう
子どもができたらまた来て
ください。結婚式や銀婚式
にもまた来てください。そ
ういうリーダーづくりにも
もつながらでしようし、子
どもも苗木植えて、山を見
に行く。そこで郷土愛とか
も生まれてくるのではない
かなあ。観光もそうですけ
ど、郷土愛の醸成みたいな
ことにもつながるのでやっ

ていきたい。こ
れは皆さん方も
特に異存はない
です。

那智の滝観光
は、ライトアッ
プとかもしてい
ますけど、その
参道も含めて那智の滝へ夜
行つても楽しいとか、ナイ
トウォークみたいないろん
な仕掛けをしていきたいと
思っています。地域の方々
からこの一〇〇年の森づく
りも大変喜んでいただいで
て、いろんなご協力もいた
だけると思つてます。

鈴木：眠っていた事業の可
能性に対して、堀町長が着
眼されたということになり
ますね。

最後に、堀町長にとつて
は年初には思つてもいない
町長就任ということになつ
たわけですが、無投票当選
でした。これについては、
どういうふうな受け止めて
今後町政を担当していくの
か、お聞かせください。

町長：本来は選挙で審判を
仰ぐというのが通常だと思
います。私が無投票になつ

たというのは、森さんが町
長に就任されたときに、役
場の組織とかいろいろ相談
を受けてお話をしました。

立候補の時に森さんの町政
を継続して発展させると申
し上げていたので、そうい
う意味では、森さんの信任
がそのまま私に信任をいた
だいて、無投票につながつ
たと思うんです。私は勝浦
で生まれ育つたので、森さ
んよりも勝浦のことを知っ
ていると自負をしています。

鈴木：那智勝浦つ子である
堀さんですから、ふるさと
を託そうというお気持ちがあ
つたということが、いま
にいたつたということでは
ね。向こう4年間、ぜひ、
ふるさと那智勝浦町の発展
のために活躍されること
を期待しています。今日は
ありがとうございました。



那智の扇祭り